

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590200085		
法人名	株式会社 芳栄		
事業所名	グループホーム和み(よねしろ棟)		
所在地	秋田県能代市二ツ井町飛根字高清水265番地		
自己評価作成日	令和4年9月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和4年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田園地帯の立地を活かし四季を身近に感じて生活できるように敷地内での畑、花壇作り、周辺の散歩、地区の行事参加等行っています。また個々に合わせて居室の掃除、食事の下ごしらえ、リネン交換等無理なくできる範囲で、家庭的な生活が送られるようなケアを行っています。そしてご家族との信頼関係を築けるように毎月初めに入居者様の近況報告、コメント付きの写真、「和みだより」(日常の様子をお伝えしたく開設以来「和みだより」の発行を続けている)を送付しています。またご家族の希望があり、主治医の協力が得られる場合は最期まで一緒に過ごす看取りの介護もしています。音楽療法士が毎月来設し、心身の活動の活発化につながるよう専門的な見地から関わっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

協力医の声に励まされ、開設以来、20件近いの看取りの経験を有する。スタッフも「自信を持って最後まで安心して生活できるホームです。」と話す。天気の良い日の散歩はもちろんのこと、年間を通して入居者の希望に答えながら様々な所へ出かけており、10月にもコーヒーとお菓子を持参して、秋の紅葉で有名な藤里の峨嵋の滝までドライブをしたとのこと。地域の祭事の際は、ホームの駐車場で近隣住民と共に、御神輿や番楽を見学できる。近隣住民との交流が盛んで、地域に根ざした地域のホームである。社長も施設長もとても話しやすく、スタッフ間の円滑なチーム作りにつながっており、互いに助け合う働きやすい職場である。家族に判りやすいように、各居室の入口には担当スタッフの顔写真と氏名が掲示され、玄関にも当日の早番、日勤、遅出、夜勤、休日等が判るよう同様の配慮がされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働いている (参考項目:10)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)-+(Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初社長が作り上げた理念を、より具体的に実践できるように年間目標とユニットごとの月間目標を掲げ、意識し取り組むことで達成できる内容にしようと職員で話しあい、目標を設定している。毎月職員会議で振り返りをし、次月の目標を検討している。	ホームパンフレットの冒頭に基本理念と基本方針が分かり易く掲げられている他、ホーム内の誰からも目のつくところに表示されている。理念は、全て「和やかな〇〇」の4つの言葉で構成され、次に文章での基本方針が明示されている。とても分かり易く、やさしさのあふれる理念と方針である。理念を踏まえ、毎年度当初にスタッフが社長と個別面談し、年度の個人目標を定めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で今まで参加していた運動会、芸達者の会、RUN伴等が毎年中止となり交流の場が制限されているが、今年はお祭りで御神輿、番楽を敷地内で披露され楽しむ事が出来た。回覧板等は入居者様と散歩がてら一緒に行き地域の方々と挨拶などしている。	7月24日、総勢70名～80名の大行列が神社の前を出発し御輿とともに町内を回る祭りを、ホームの駐車場で近隣住民と共に見学することができる。以前は、ホームの祭典を兼ね、スタッフによる焼きそばや焼き鳥の出店等で地域の祭りを盛り上げたとのこと。近隣住民との交流は、雪寄せ、畑おこしや草取り、山菜や野菜のおすそ分け、花の苗や苗木の世話、唄や踊り、絵の展示協力等々、数えきれない程あり、まさに地域に根ざした地域のホームである。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	行事参加等はコロナ禍で減っているが、回覧板を入居者様と一緒に回したり、日常的に交流しており、常に開かれた交流を心がけている。また、地域の学校へ出向きグループホームとはどんなところか等の講話をさせていただき、地域の理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ対策で暫く事業所での運営推進会議は行っておらず、書面報告という形で資料提供をし、気付いたこと等をアドバイス頂きながら更なるサービスの向上を図っている。	家族代表、地区代表、第三者委員、地域包括支援センター、市の市民福祉課等で構成された運営推進会議を年6回開催している。地域密着型サービス外部評価調査員の経験者が運営推進会議の委員であり、様々なアドバイスを戴き、具体的に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	提出物や新しい取り組み、また分からないことがあれば日頃より長寿いきがい課と連携をとり、実情の報告をしており、都度アドバイスもいただいている。	市の担当者とは互いに顔の見える関係にあり、いつでも気軽に連絡・確認を行っている。コロナ禍により書面での運営推進会議が続いているが、市の担当者には毎回直接出向いて会議の資料を手渡ししている。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止、虐待防止委員会を設置し、職員会議の中で研修を行っている。高齢者虐待防止法についても内部研修を行い、正しい理解ができるように努めている。	3ヶ月に一度身体拘束廃止委員会を開催し、具体的な対応策が検討され、全スタッフに周知されている。過去にベッドへの4点柵や車椅子への安全ベルトの使用があったが、いずれも代替案を適用することで、解除に繋がっている。	
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	常に新しい情報にアンテナを張り、入居者に優位な方向となるよう日々努めている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に管理者が利用者、家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得して頂いた上でサービスを提供している。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	家族等が意見、要望、苦情等を表せるように玄関に意見箱、用紙、ペンを準備している。また苦情相談窓口について契約時など説明する機会を設けている。	毎月なごみだよりを発行しており、担当スタッフからの近況報告や生活の様子を同封している。各居室の入口には担当スタッフの顔写真と氏名を掲示している。当日の早番、日勤、遅出、夜勤、休日等が判るよう玄関にも同様の掲示がある。家族が判りやすいようにとの配慮である。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	代表者が年1回職員との面談の機会を設け、職員の意見を聞き、処遇改善を行っている。また、管理者は常に職員の提案や相談などを受け適切に反映できている。職員が子育てと仕事を両立できるよう配慮した勤務形態をとっている。	社長との個別面談を雇用契約書の更新を兼ね、4月に実施している。自分の要望等を気兼ねなく相談でき、社長も施設長もとても話しやすく、スタッフ間の円滑なチーム作りにつながっており、互いに助け合う働きやすい職場である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などに参加し、ネットワークづくりを行っている。		
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望には常に耳を傾けるようにしている。サービス導入時には本人が安心して過ごせるように要望を伺い、介護計画書に反映、ケアを統一し、安心していただけるような関係づくりに努めている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	毎月和みだより、近況報告のお手紙、コメント付きの写真をご家族にお送りしている。入居された日はご本人が休まれた後に電話連絡し様子を伝えるなど関係づくりに努めている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様ができることは個人の状況に合わせて声掛けし一緒に行っている。ちゃん拭きや、料理、洗濯物干し、洗濯物たたみ、お膳下げなど日常の中で一緒に出来る事を見つけ取り組んでいる。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様、ご家族の要望に沿って電話や手紙などで交流を図っている。毎月近況報告を送り入居者様の様子をご家族に伝えている。病院受診の際など付き添いを依頼するなど共に入居者様を支える関係を築いている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	地域の行事に参加、交流を図って頂けるように努めている。コロナウイルス対策としてラインでテレビ電話をし顔を見ながら話したり交流を続けている。また、手紙が届いたら電話で話をするなど本人の希望に応じて対応している。	以前の同僚や兄弟、友人等々が面会に訪問している。行きつけの美容院利用を支援したり、家族とドライブや墓参り等で関係を継続している。コロナ禍以前は、居室でお茶を飲みながらくつろげるよう配慮していた。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	施設内でイベントを行う際は両棟一緒に行い交流しているほか、普段の生活でもホールに職員を配置し、交流のサポート、見守りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	主治医、ご家族と施設内でデス・カンファレンスを行い、ご家族と交流する機会を設けた事例もある。また、他施設に入居された方との手紙の交流もありました。		
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	入浴時や日頃の会話の中から思いを把握できるように努め、外に出たい、草取りをしたい等、即実行出来る事に関してはすぐに対応している。初回面談時に丁寧に入居者様及びご家族から聞き取り、本人本位に検討しケアに活かしている。	手先の仕事得意な方の部屋は、本人が作成した作品であふれていた。畑仕事の得意な方はホームの畑の草取りで活躍してくれ、普段から畑の様子をいつも確認したり収穫の催促をしたり、日常の楽しみとなっているとのこと。山菜の下ごしらえも入居者様にお渡し、得意なことを活かせるよう配慮している。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人またはご家族に聞き取りし、これまでの生活環境や生きがい、サービス利用の経過等把握に努め、記録し、職員で情報を共有できるようにしている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	毎月の職員会議で入居者様について意見交換を行っている。また、毎日朝と夕に申し送りを行い、情報共有を図っている。担当職員が中心となり状態変化時や2か月毎にモニタリング、内容確認、変更を行い、原案を元に意見交換し介護計画書を作成している。	週2回以上入浴がしたい意向を家族を通じて把握でき、早速介護計画に反映させ、入浴回数を増やすことにつながった事例を確認した。「ソフソフしたときはトイレの兆し」と家族から情報提供があり、スタッフ間で共有し、対応に繋がったとのこと。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	介護計画書のサービス内容に番号を付け、分かりやすいように介護記録に記入している。介護記録に記入された情報を共有しながら介護計画書の見直しに活かしている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年2回の消防訓練では、地域の消防署にも協力いただいている。毎年の富根地区祭典に参加し入居者様に豊かな暮らしを楽しむ事ができるよう支援している。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及びご家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する医療機関に通院介助している。通院困難な場合は協力医の訪問診療を受けられる。また、歯科診療、訪問看護が受けられ、内服に関する不明な点は薬局に相談する等適切な医療が受けられるよう支援している。受診後はご家族の意向に沿って電話や書面にて受診報告をしている。	入居者それぞれのかかりつけ医が異なることから、薬局もそれぞれで異なる現状にあるが希望に沿うよう支援している。ホームのなじみの薬局もあるとのこと。通院時の待ち時間に対応が難しい入居者は協力医療機関による往診を受けられ、両ユニットで11名利用している。連絡すれば歯科の往診も可能なほか、週1回の訪問看護もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医院の看護師に関してはFAXやライン、電話での状況報告や指示を仰ぐなど適切な対応が出来るよう情報も共有している。訪問看護ステーションの看護師には気づきや相談などを気軽に話せるような関係が出来ている。		
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際はご家族、病院との情報交換を密に行い、退院後の受け入れに対しても本人の状態やリハビリ等を見に行くなど情報交換も出来ている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りに関する指針に沿って説明している。状況に応じて、協力医、家族、事業所で話し合い、意向確認同意書を交わしている。入居者様が心地よく過ごしていただけるよう話し合い、実践している。デスクカンファレンスでは協力医、ご家族にも参加していただき思い出を話しながら故人を偲んでいる。	以前は家族が通ったり付き添ったりして看取りに対応していたこともあり、スタッフの不安も大きかったものの、協力医から「一緒に対応しよう。」と励まされ、20件近いの看取りの経験を有する。昨年は8月に1名の看取りをした。「看取りは辛いですが、できる限りそばにいたいよう心がけています。」「自信を持って最後まで安心して生活できるホームです。」とのスタッフの言葉に感銘を受けた。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルや連絡網を作成し、目につきやすいように大きく貼っている。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。新入職員は自家発電機の操作を習得することになっている。非常口が階段のためスロープを2台準備し使用している。米や缶詰等食料品の備蓄のほか、プロパンガス、ストーブ2台を備え、寒さ対策にも対応できるようにしている。	前回の外部評価結果を踏まえ、安全に避難できるよう避難路のコンクリートの階段に、簡易スロープを新たに用意しており、避難訓練で使用していることが写真で確認できた。スロープは非常に軽く、持ち運びが楽とのこと。約50メートル先のブナの森ふれあい伝承館が避難場所となっている。近隣住宅との距離が比較的離れていることで、もらい火は想定しにくい。ハザードマップ上では、水害の危険性もほぼ無い。	
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導する際は「うがいにいきましょう」等声掛けし、他入居者様に気づかれないうように、自尊心に配慮した声掛けを心がけている。居室を見られたくない方には暖簾をかけたり、入室時はノックするなどプライバシーに配慮している。	「トイレにいきましょう。」ではなく「一緒に行きましょう。」と声かけすることで、周囲に悟られないように工夫している。居室入口の暖簾は、プライバシーへの配慮のため。入居者は人生の先輩であるとの認識のもと、声かけするよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張美容室が来設し、本人とご家族の希望で行う事ができている。ご家族と協力し季節に合った本人が好む衣類を身に着けられるよう支援している。本人が身だしなみを整える事が難しい方には適宜介助させて頂いている。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を感じられる献立を心がけ、メニュー係がカロリーを計算している。入居者様と一緒に下ごしらえや片付けなどを行っている。状態に合わせて食事形態を変えて提供している。	調査日の昼食は、入居者とスタッフが一緒に作っただまこ餅であった。祝い事には、だまこ餅が定番とのこと。誕生会には誕生者のリクエストに応えたメニューを提供しているとのこと。東京在住だった入居者の誕生日には本人たつての希望で、市内の寿司職人がホームに来訪し江戸前寿司を握ってくれた。どら焼きを手作りしたり、みんなで山菜の下ごしらえをしたり、入居者と共に準備段階から食事を楽しんでいる。ドライブがてら道の駅でソフトクリームを食べに出掛けることもある。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事形態の工夫し提供している。水分やゼリーやトロミなどで1日の摂取量も記録し把握するように努めている。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前に口腔ケアを実施し、10時と15時はお茶うがいで口をすすぐよう努めている。必要に応じて訪問歯科医院を利用している。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、入居者様一人ひとりの排泄パターンを把握、共有している。尿意の訴えない入居者様には定期的にトイレ誘導することでトイレで排泄できるよう支援している。自然排便を促すため運動や水分補給の強化など工夫し対応している。	食事、水分補給、体重、血圧、服薬、洗面、口腔ケア排泄等々15項目に及び個別に1か月分が記入できる健康管理に関するチェック表を採用しており、排泄の自立支援に活用している。受診の際、医師に報告する際の貴重なデータである。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者様の排泄パターンに応じて座薬の使用、水分摂取の強化、ヨーグルトを摂取して頂くなど、個々に合わせた対応を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本週2回入居者様の体調や要望に合わせて入浴支援を行っている。入浴剤を入れたり同性介助希望の方には対応できている。入浴中は1対1で歌を歌ったり相談事を話したり、昔話を花を咲かせたりしている。体調等に合わせシャワー浴や清拭もしている。	入浴は利用者とスタッフが1対1になり、唄ったり、昔の話をしたりする貴重な機会。入浴剤を取り入れており「いい匂い」との入居者からの声に「ラベンダーだよ」と楽しげな会話も聞かれた。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり日々の状況を把握し、本人の意思も確認しながら休息したり安眠できるように支援している。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診記録、お薬情報を確認し、把握に努めている。また入居者様ごとに担当者を決め薬の変更があった際は申し送り確認している。飲み忘れや誤薬無いよう職員2名で確認することを徹底している。作用、副作用についても確認し状況に応じて医師に相談・報告している。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野を活かし、張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう編み物や家事、散歩、好きな番組を見るなど気分転換が出来るよう支援している。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	伝承館や旧富根小学校など近隣には散歩がてら出かけている。入居者様の要望を聞きながら季節に応じて花見や空港、スーパーに出かけ気分転換が出来ている。	10月にはコーヒーとお菓子を持参して秋の紅葉で有名な藤里の峨籠の滝までドライブをし、外出先での入居者の笑顔が印象的であったとのこと。天気の良い日の散歩はもちろんのこと、年間を通して入居者の希望に答えながら様々な所へ出かけ、リフレッシュ出来るよう取り組んでいる。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで安心される方には小銭を管理して頂いている。入居者様によっては買い物ツアーや病院受診等の際は本人にお金を渡し、支払ってもらうように努めている。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日にち曜日が分かるように大きく表示している。また季節感が感じられるように直近の行事の写真や季節の壁画を貼ったりしている。温湿度も常に適温になるように心がけている。	ロッカーとベッドが備え付けとなっている。明るい色調の各居室は、窓から山々や田んぼ等の四季の移ろいが楽しめる。当初は家庭用のベッドだったが、入居者の状況に合わせてギャッジベッドにも対応している。家族にも分かり易いよう、各居室の入口に担当スタッフの顔写真と氏名が掲示されていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の関係性に配慮し、居室やテーブルで思い思いに過ごせるようにテーブルやソファの配置を工夫している。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人が使い慣れた家具や布団、小物(茶碗や箸等)をご持参頂き使用している。また家族の写真や思い出のある作品などを飾り本人が居心地よく過ごして頂けるよう工夫している。	ホールは、クリスマスに合わせた飾りつけが施され、スタッフの心配りが感じられた。ホールからは近隣住民がお世話してくれる花々や樹木が見渡せ、心和む環境にある。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ドアの横に表札を設置している。廊下の動線については危険なものをおかないようにし、入居者様に合わせた模様替えや家具の配置等に配慮している。		